

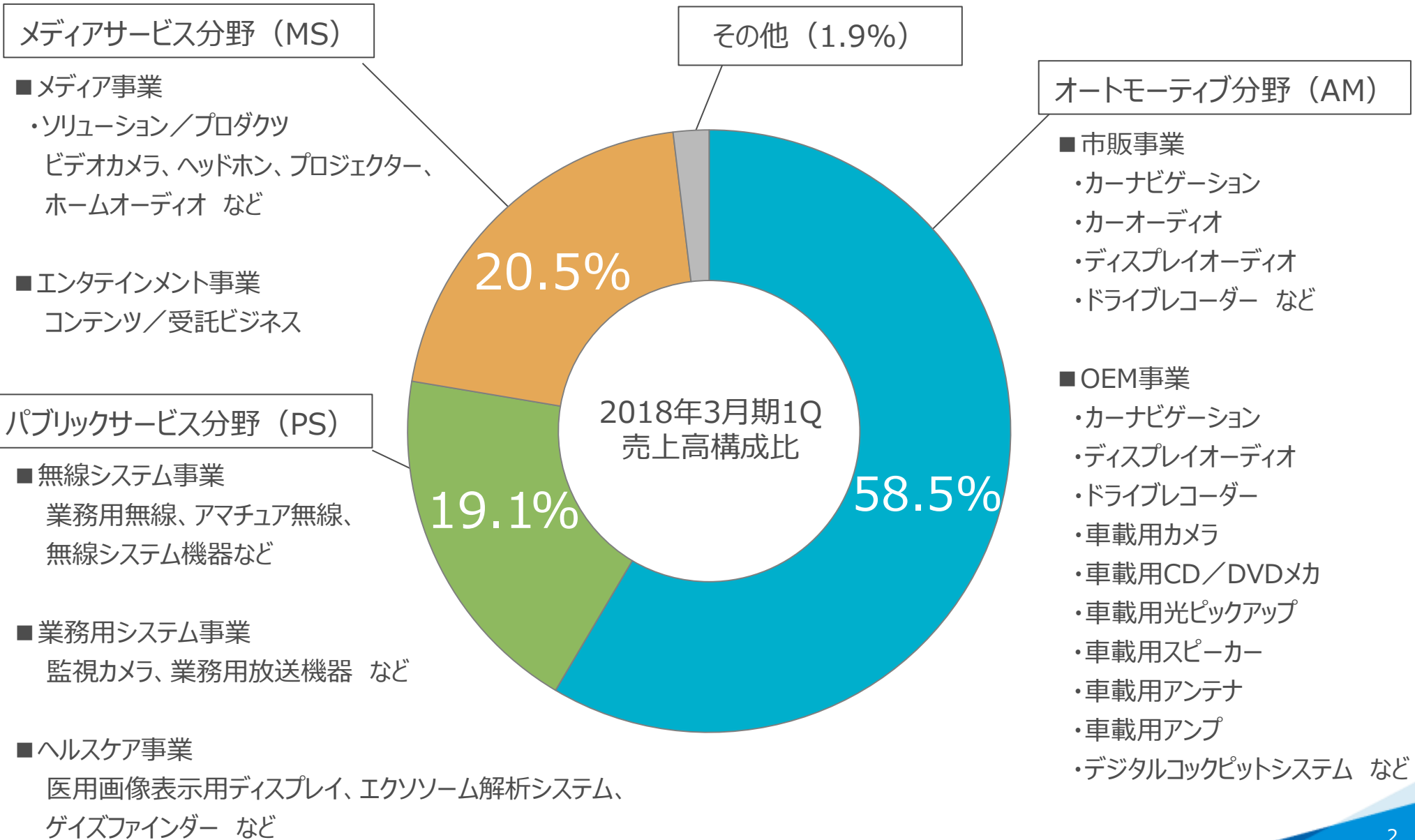
# JVCケンウッド 決算説明資料

## 2018年（平成30年）3月期 第1四半期

2017年8月2日

株式会社JVCケンウッド

# 事業内容



- 1. 2018年3月期 第1四半期決算概況**
- 2. 2018年3月期 通期業績予想**
- 3. トピックス**

**1. 2018年3月期 第1四半期決算概況**

2. 2018年3月期 通期業績予想

3. トピックス

# 2018年3月期 1Q決算ハイライト

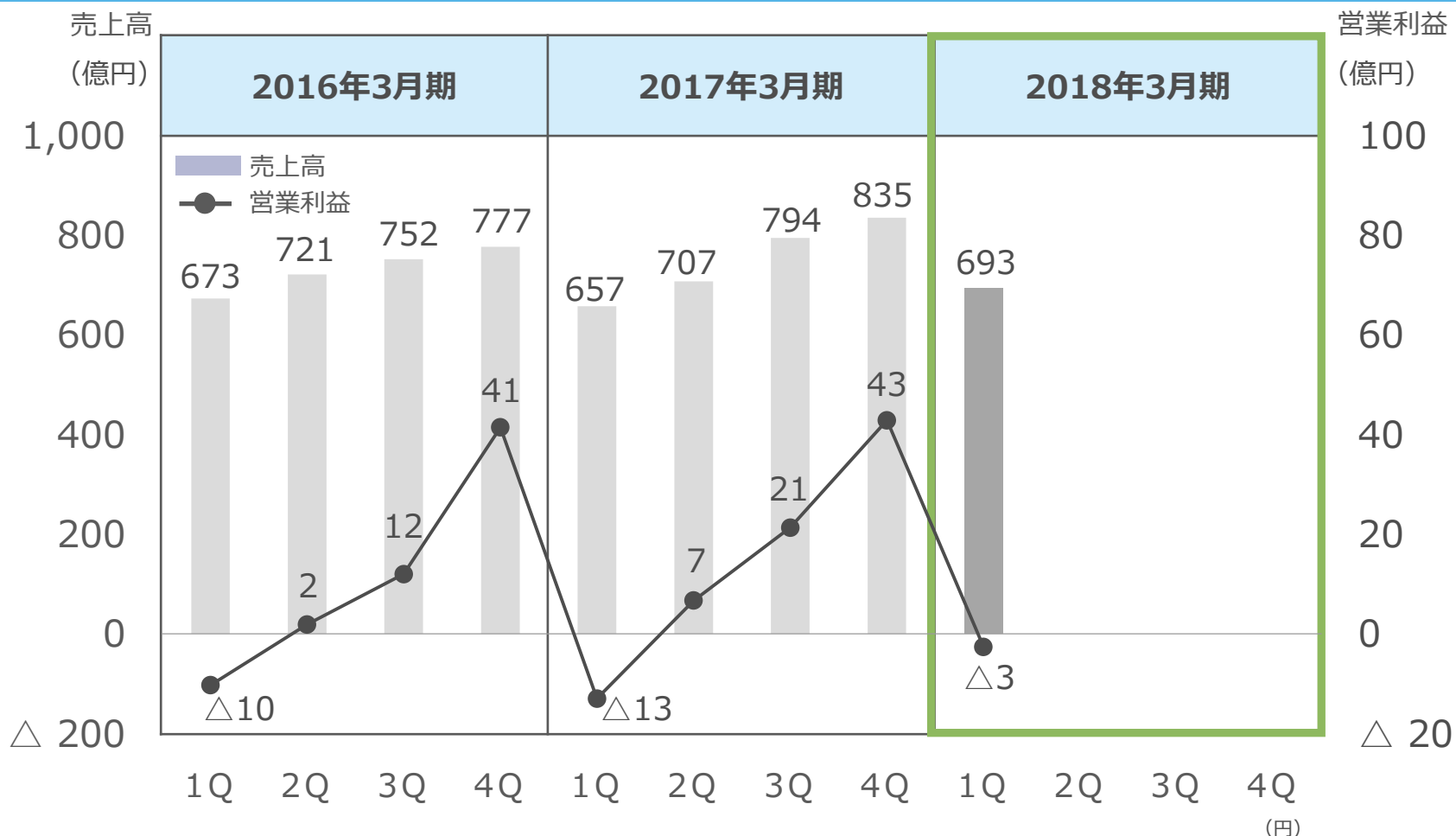
- 売上高は、AM分野OEM事業の大幅な販売増により、増収
- 営業利益は、AM分野OEM事業の大幅な増益により、損失が大幅に縮小
- 営業損失の縮小により、経常利益、四半期純利益ともに、損失が大幅に縮小

(億円)

	'17/3期 1Q		'18/3期 1Q		
		構成比		構成比	前期増減率
売上高	657	100.0	693	100.0	+5.5%
売上原価	486	73.9	517	74.6	+6.4%
販売費及び一般管理費	184	28.0	179	25.8	△3.1%
営業利益	△ 13	△ 2.0	△ 3	△ 0.4	—
経常利益	△ 14	△ 2.1	△ 3	△ 0.4	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	△ 27	△ 4.1	△ 12	△ 1.7	—

		'17/3期					'18/3期				
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
損益為替レート	1米ドル	108円	102円	109円	114円	108円	111円				
	1ユーロ	122円	114円	118円	121円	119円	122円				

# 2018年3月期 1Q決算（四半期別） 実績推移



損益為替レート	1米ドル 1ユーロ	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
		121	122	121	115	108	102	109	114	111			
		134	136	133	127	122	114	118	121	122			

(億円)

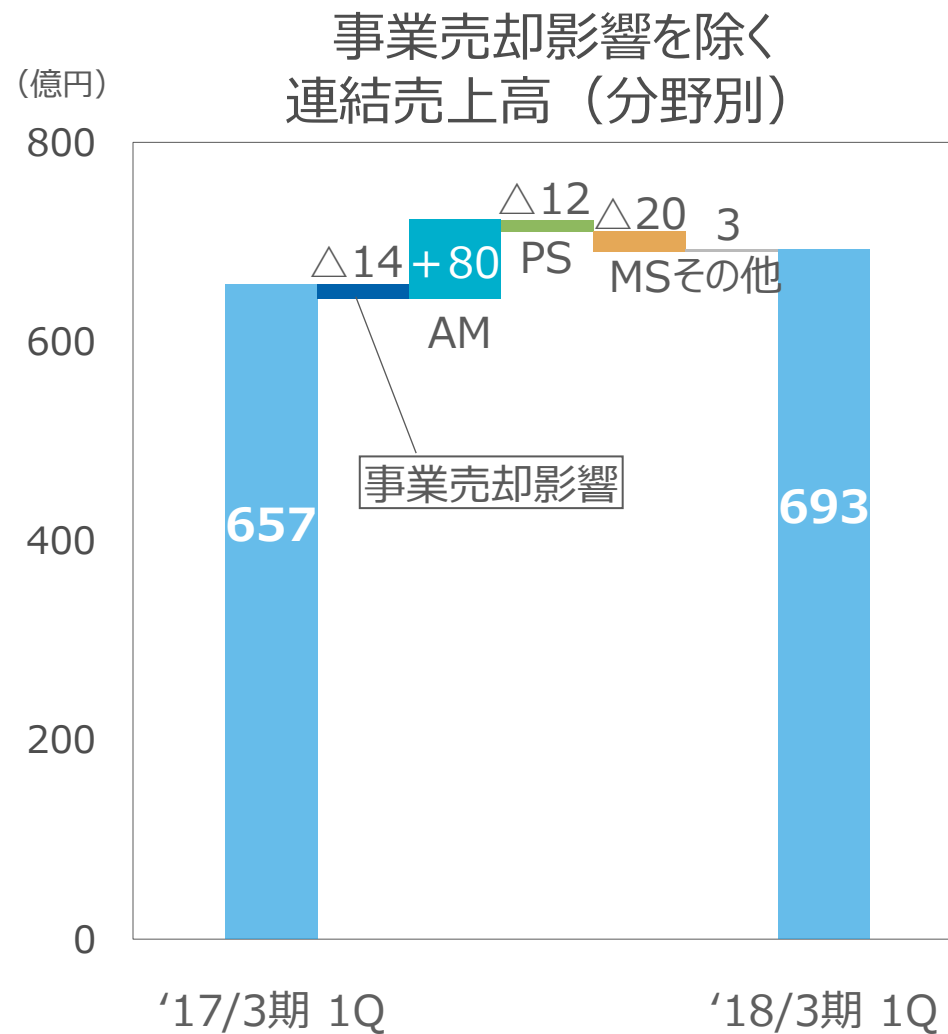
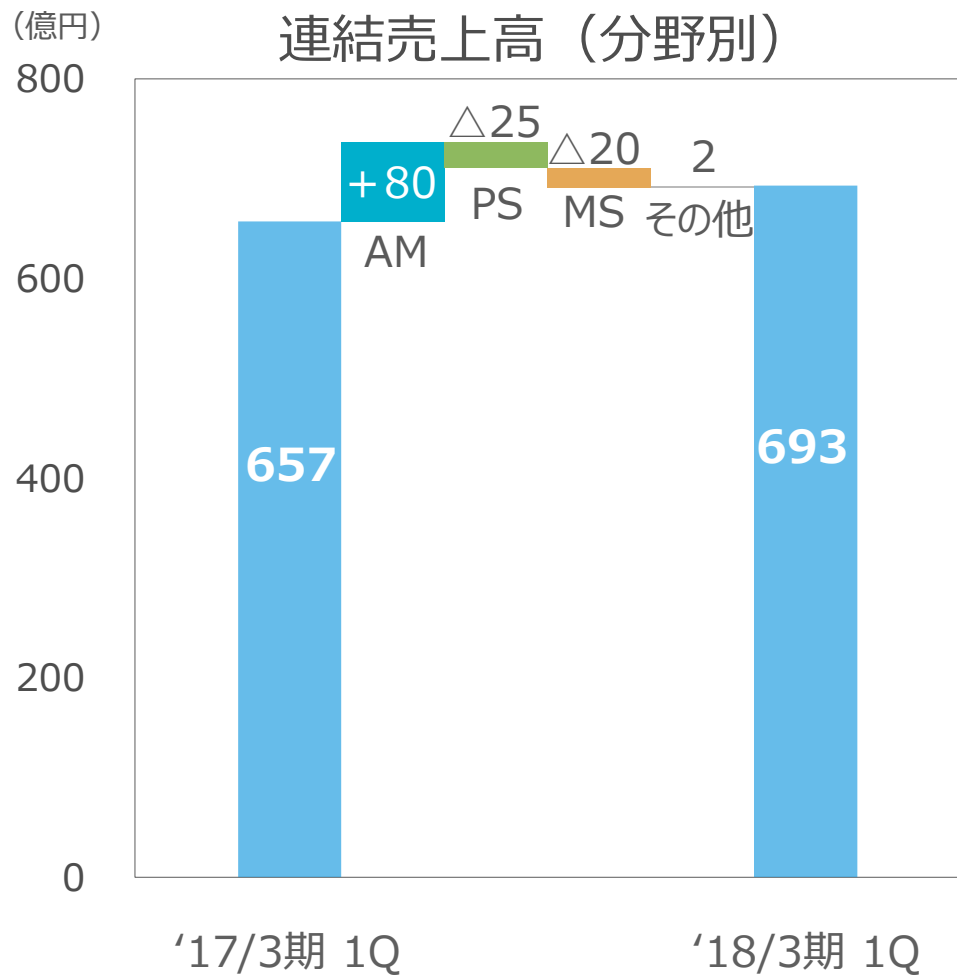
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上高	1,394	1,528	1,364	1,629		
営業利益	△ 8	53	△ 6	64		

# 2018年3月期 1Q決算 分野別の状況

(億円)

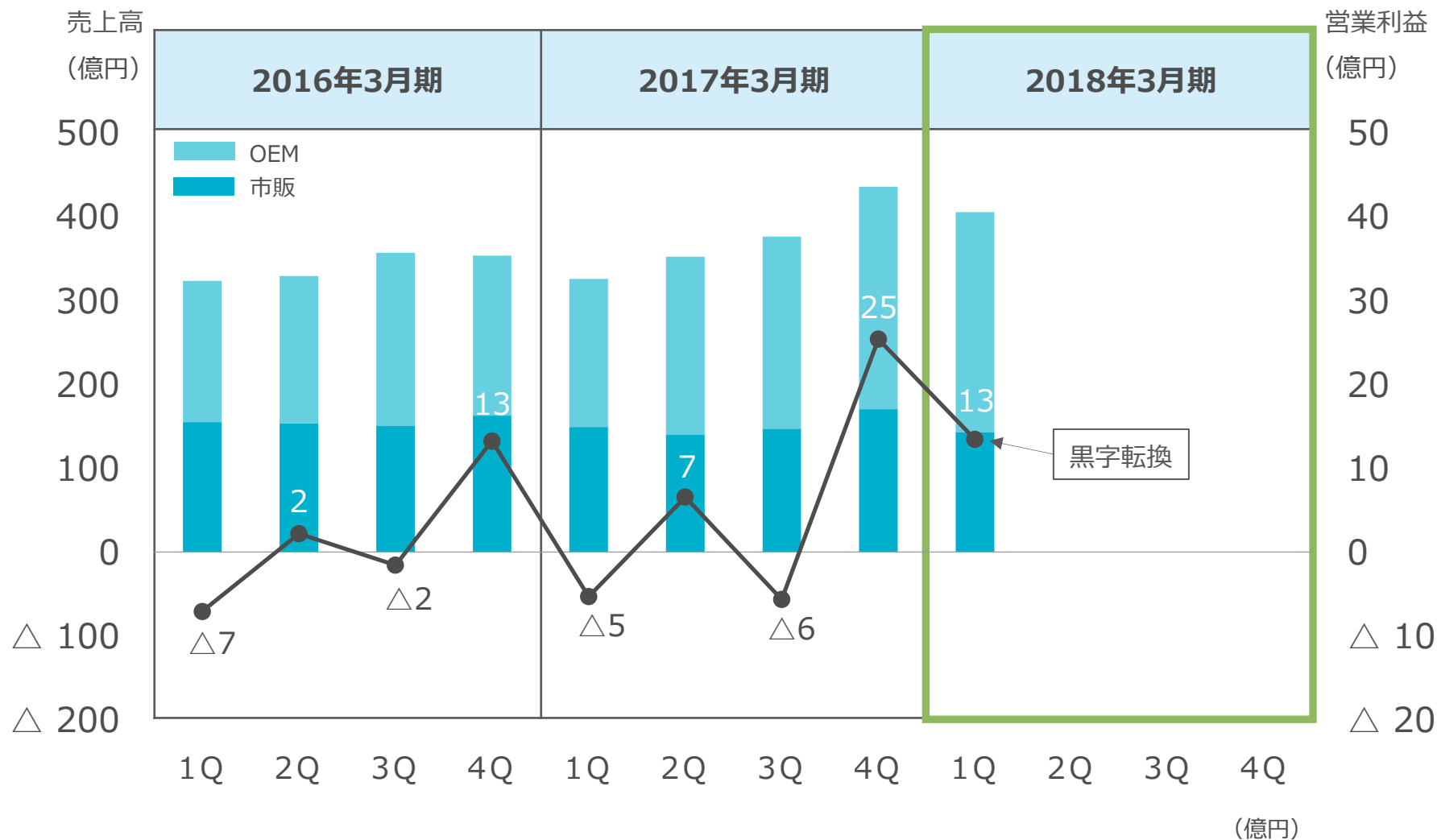
		'17/3期	'18/3期	増減	前期増減率	要因
		1Q	1Q			
オートモーティブ	売上高	326	405	+80	+24.4%	* 市販が海外販売減の影響を受けるも、OEMの大幅増により、分野全体で増収
	営業利益	△ 5	13	+19	-	* 市販が減収の影響を受けるも、OEMの大幅増により、分野全体で損益改善し黒字転換
パブリックサービス	売上高	158	133	△ 25	△16.1%	* 無線システムの販売減、業務用システムの事業売却影響 △14億円などから、分野全体で減収
	営業利益	△ 10	△ 15	△ 6	-	* 無線システムの減収および米国無線子会社の人員増による減益、業務用システム減益から、分野全体で損失拡大
メディアサービス	売上高	162	142	△ 20	△12.4%	* エンタテインメントは前年同期並みも、メディアの販売減影響を受け、分野全体で減収
	営業利益	1	△ 1	△ 1	-	* エンタテインメントは増益も、メディアが減益となり、分野全体で減益
その他 (セグメント間消去を含む)	売上高	11	13	+2	+15.8%	
	営業利益	1	0	△ 1	△95.8%	
合計	売上高	657	693	+36	+5.5%	
	営業利益	△ 13	△ 3	+10	-	

# 2018年3月期 1Q決算 連結売上高（分野別）



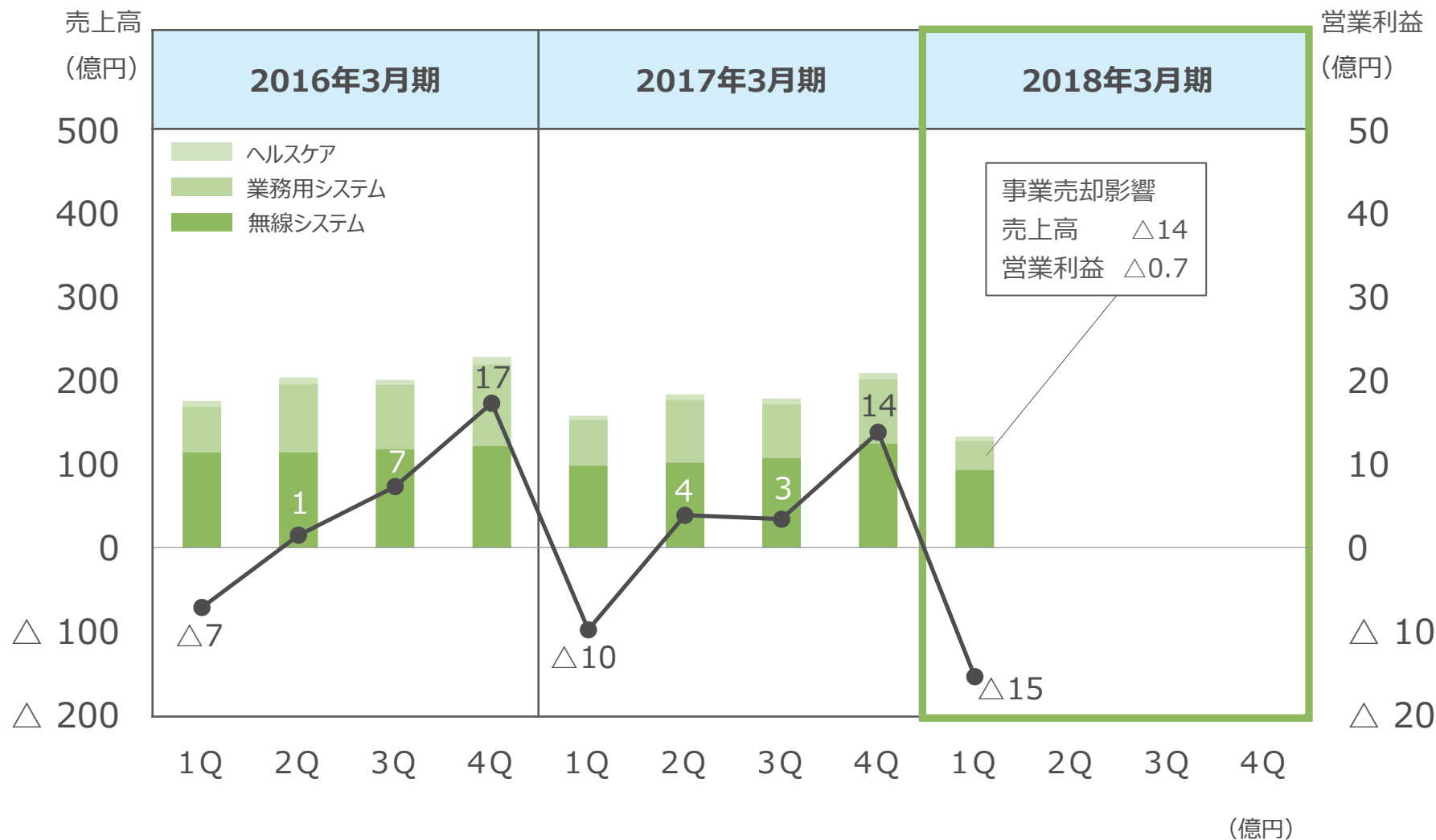


# 2018年3月期 1Q決算（四半期別）オートモーティブ分野



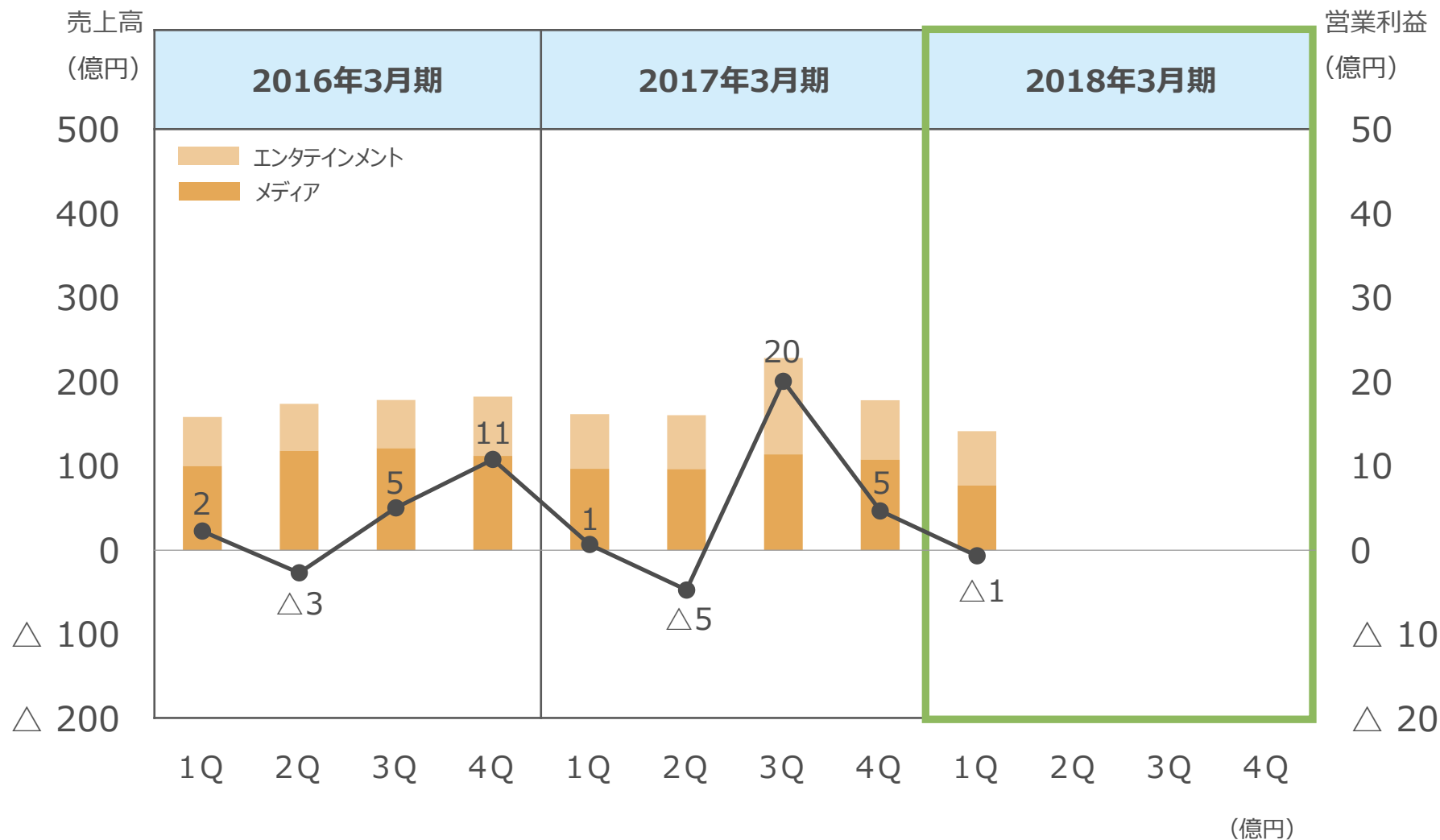
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上高	653	711	678	812		
営業利益	△ 5	12	1	20		

# 2018年3月期 1Q決算（四半期別）パブリックサービス分野



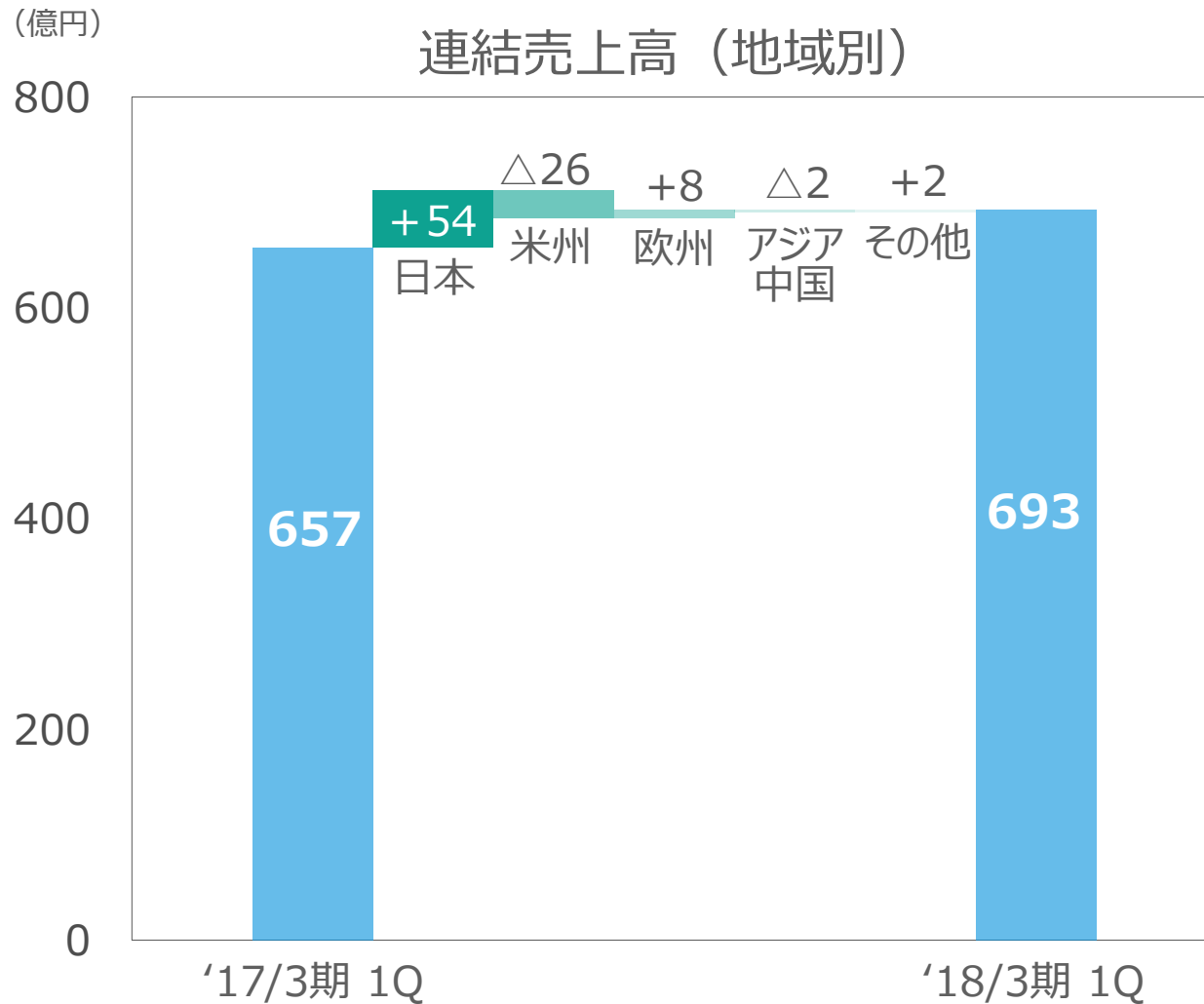
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上高	379	430	342	388		
営業利益	△ 6	25	△ 6	17		

# 2018年3月期 1Q決算（四半期別）メディアサービス分野

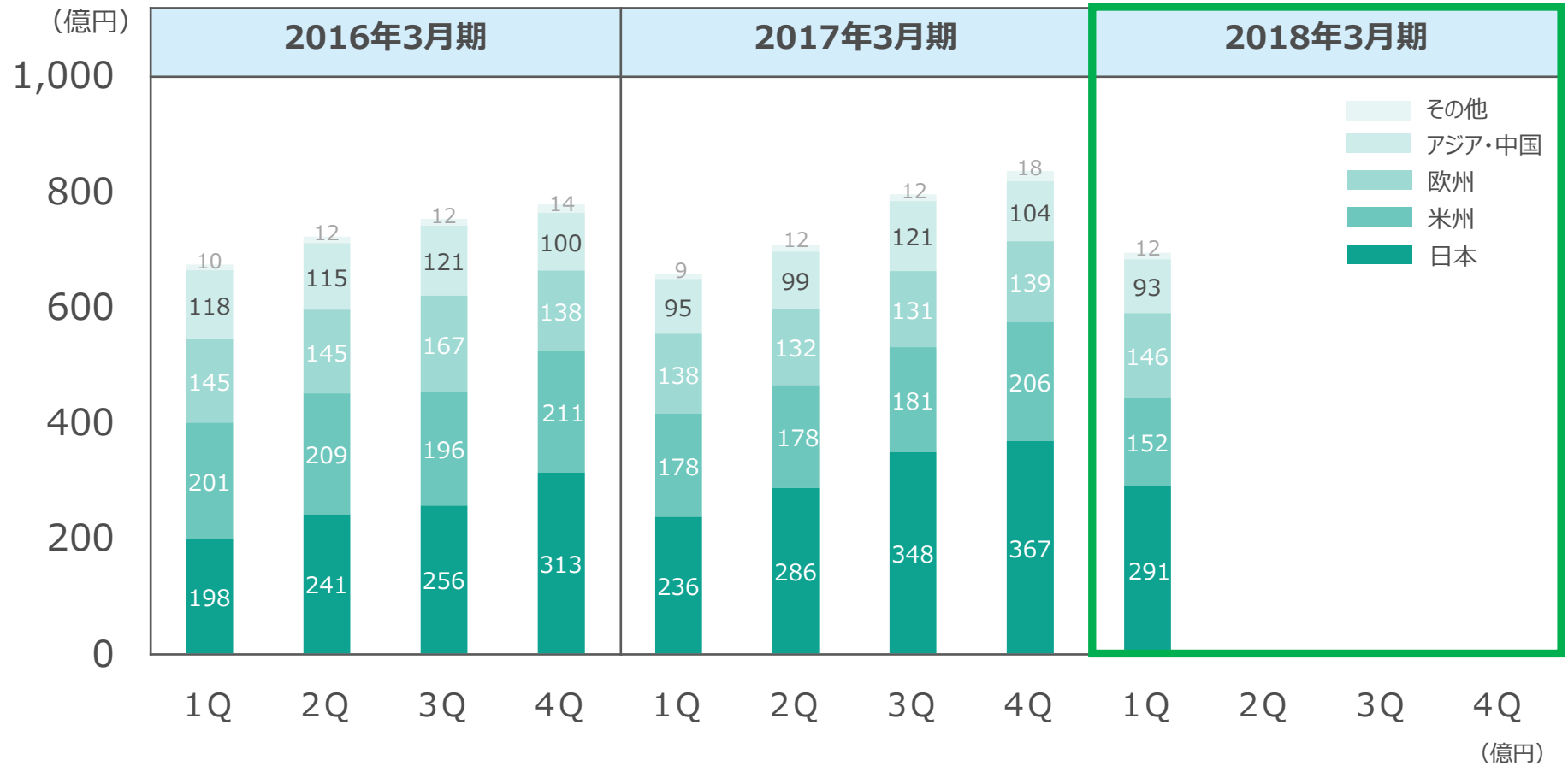


	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上高	333	361	322	406		
営業利益	△ 0	16	△ 4	25		

# 2018年3月期 1Q決算 連結売上高（地域別）

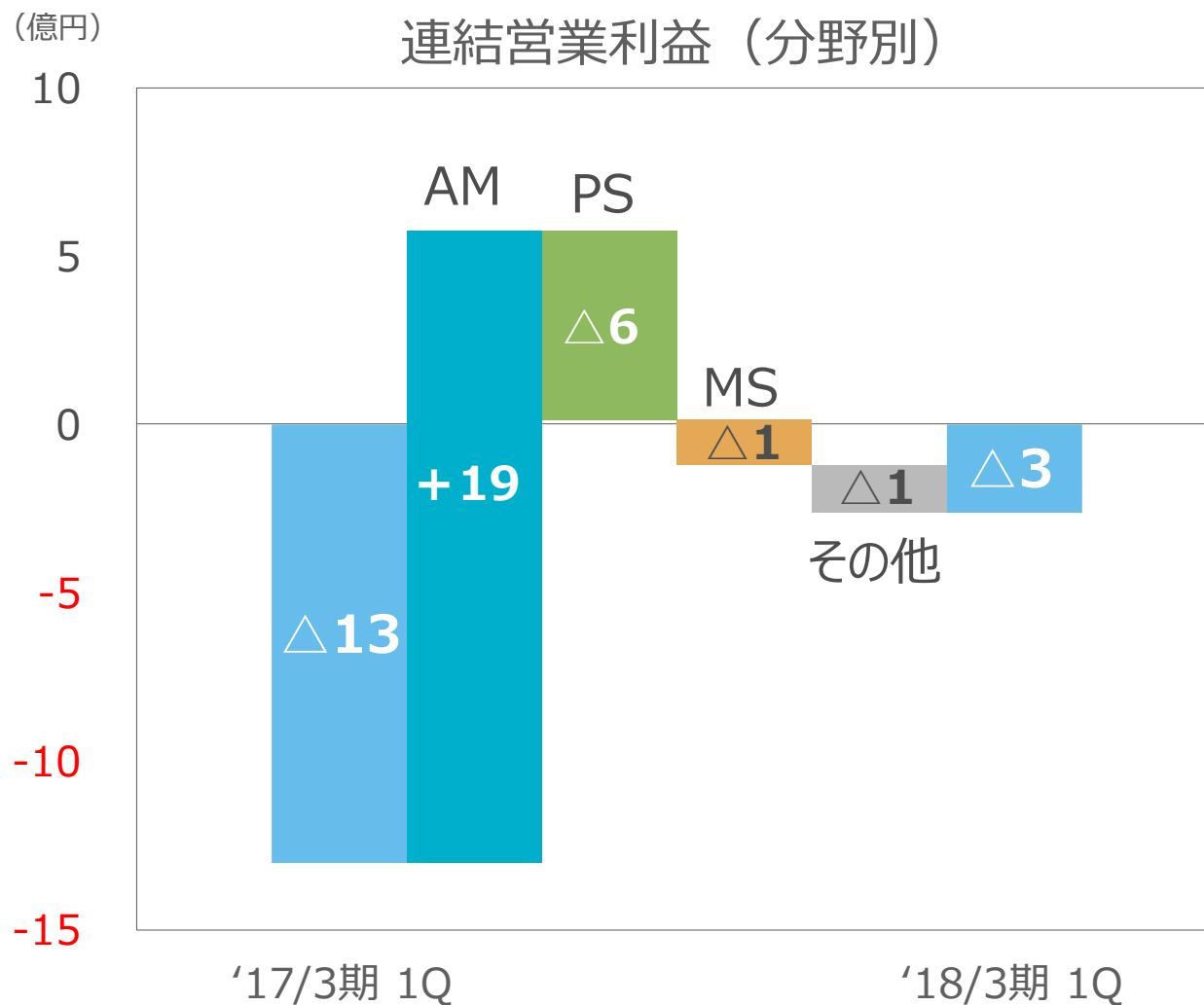


# 2018年3月期 1Q決算 四半期別連結売上高（地域別）



	上期	下期	上期	下期	上期	下期
日本	439	569	523	716		
米州	410	407	356	387		
欧州	290	305	270	271		
アジア・中国	233	221	194	225		
その他	22	26	21	30		

# 2018年3月期 1Q決算 連結営業利益（分野別）



# 2018年3月期 1Q決算 連結経常利益 および 親会社株主に帰属する四半期純利益

- 営業損失の大幅な縮小により、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益ともに大幅に改善

(億円)

	'17/3期 1Q	'18/3期 1Q	増減
営業利益	△ 13.0	△ 2.6	+ 10.4
営業外収支	△ 1.1	△ 0.4	+ 0.7
経常利益	△ 14.1	△ 3.0	+ 11.1
特別損益	△ 3.5	△ 0.0	+ 3.5
法人税他	△ 9.2	△ 8.9	+ 0.2
親会社株主に帰属する四半期純利益	△ 26.8	△ 12.0	+ 14.8

# 2018年3月期 1Q決算 営業外収支・特別損益の状況

(百万円)

	'17/3期 1Q	'18/3期 1Q	増減
営業外収支	△ 106	△ <b>39</b>	<b>+67</b>
営業外収益	383	<b>497</b>	<b>+114</b>
受取利息・配当金	201	122	△ 79
団体保険配当金	82	107	+25
その他	100	266	+166
営業外費用	489	<b>536</b>	<b>+47</b>
支払利息	258	226	△ 32
為替差損	61	126	+65
その他	169	182	+13
特別損益	△ 355	△ <b>1</b>	<b>+354</b>
特別利益	29	<b>35</b>	<b>+6</b>
固定資産売却益	29	18	△ 11
その他	-	16	+16
特別損失	384	<b>36</b>	△ <b>348</b>
固定資産売却損・除却損	19	21	+2
事業構造改革費用	3	4	+1
雇用構造改革費用	86	-	△ 86
関係会社清算損	272	-	△ 272
その他	2	9	+7



# 2018年3月期 1Q決算 貸借対照表サマリー

(億円)

	'17/3期末	'18/3期 1Q 末	増減
総資産	2,623	2,601	△ 22
有利子負債	703	716	+ 13
ネットデット	285	273	△ 12
ネットD/Eレシオ (倍)	0.51	0.50	△ 0.01
純資産	615	605	△ 11
自己資本	560	549	△ 12
自己資本比率 (%)	21.4	21.1	△ 0.3

# 2018年3月期 1Q決算 キャッシュ・フロー サマリー

- 税金等調整前四半期純損失の損失額が減少したことに加えて売上債権の回収による収入が増加したことなどから、営業キャッシュ・フローは増加
- 無形固定資産の取得による支出が減少したことなどから、投資キャッシュ・フローは減少

(億円)

	'17/3期 1Q	'18/3期 1Q	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	2	53	+ 51
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 33	△ 25	+ 9
フリー・キャッシュ・フロー	△ 31	29	+ 60
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 16	△ 3	+ 14
合計	△ 48	26	+ 74

1. 2018年3月期 第1四半期決算概況

2. 2018年3月期 通期業績予想

3. トピックス

# 2018年3月期 通期業績予想

- 1QはAM分野OEM事業の販売が好調に推移したことなどから、期初の想定を上回って推移
- 2Q以降はAM分野でOEM事業の好調な販売が見込まれることに加え、下期にかけてPS分野、MS分野での業績向上が発現する見込みではあるが、現時点では期初に公表した通期業績予想の変更は行わない

(億円)

		'17/3期 実績	'18/3期 予想	増減
売上高		2,993	2,950	△ 43
営業利益		58	64	+6
経常利益		36	44	+8
親会社株主に帰属する 当期純利益		△ 67	14	+81
		'17/3期実績	'18/3期想定	
損益為替レート	1米ドル	108 円	113 円	
	1ユーロ	119 円	121 円	

1. 2018年3月期 第1四半期決算概況

2. 2018年3月期 通期業績予想

3. トピックス

# オートモーティブ分野 トピックス

- 市販：国内市場でドライブレコーダー + 「彩速ナビ」連携を積極推進

## スマート連携

ドライブレコーダー + カーナビ

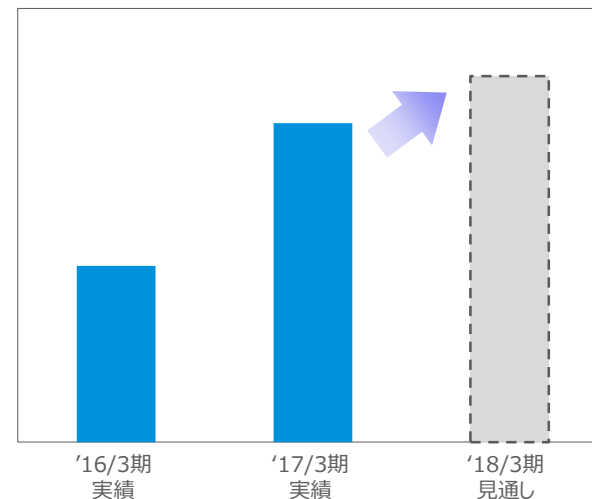
メリット1  
大きな画面でしっかり確認



メリット2  
再生映像を拡大表示



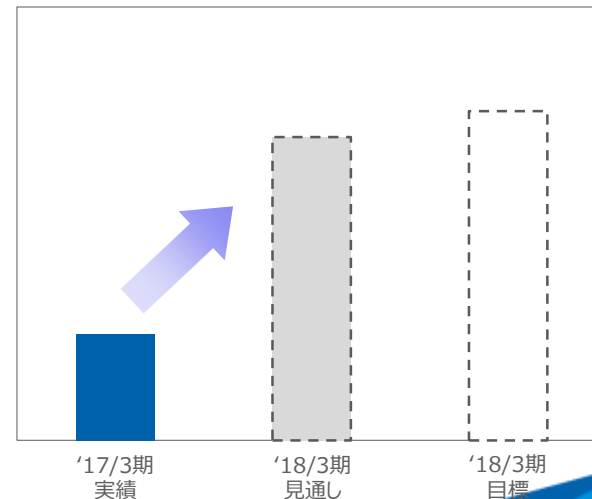
当社国内市販ドライブレコーダー  
台数実績・見通しイメージ



- OEM：用品ナビゲーションに加え、用品ドライブレコーダーが大幅増加



当社国内用品ドライブレコーダー  
台数実績・見通しイメージ

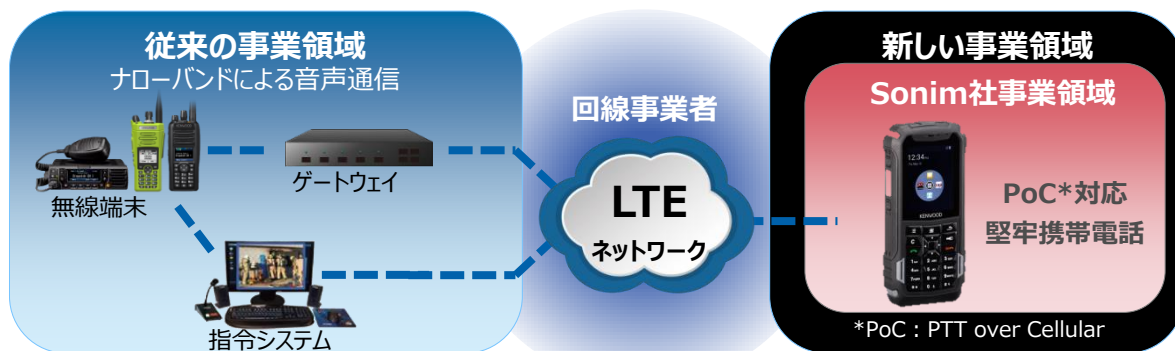


# パブリックサービス分野 トピックス

## ■ 無線システム：

端末新商品導入による拡販とEFJT人員増強によるシステム受注拡大  
および国内外のIP無線ソリューション事業者への営業活動を推進

【NEW】  
マルチプロトコル対応  
デジタル無線機  
「NX-3000シリーズ」



＜米Sonim社連携によるIP無線ソリューションイメージ＞

## ■ 業務用システム：

IVA（インテリジェントビデオ解析システム）の国内物流会社への導入や、  
交通インフラ施設の顔認証システム受注などソリューションビジネスの拡大



＜インテリジェントビデオ解析＞



＜顔認証システムイメージ＞

# メディアサービス分野 トピックス

## ■ メディア：

新生Victorブランド第一弾

頭外定位技術「EXOFIELD」搭載

音場特性カスタマイズサービス

「WIZMUSIC」発売開始！



## ■ エンタテインメント：

1Q貢献作品 星野 源BD+DVD「Music Video Tour 2010-2017」

小泉今日子アルバム「コイズミクロニクル~コンプリートシングル  
ベスト1982-2017~」

2Q期待作品 桑田佳祐ニューアルバム「がらくた」(8/23リリース)

星野 源ニューシングル「Family Song」(8/16リリース)



# JVCKENWOOD

このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらす恐れがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、(1) 主要市場（日本、米州、欧州およびアジアなど）の経済状況および製品需給の急激な変動、(2) 国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3) ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、(4) 資本市場における相場の大幅な変動、(5) 急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与えうる要素としてはこれらに限るものではありません。